

風土記の丘の花だより³²⁹

今、そしてこれから見られる植物(2026年7月11日)

雨が上がるととても蒸し暑いですね。山を歩かれる際には十分な水分補給をお忘れなく。ニイニイゼミに続いてクマゼミも鳴き始めました。いよいよ夏ですね。今回も暑さに負けず、4種類の花を紹介しましょう。



万葉植物園でユリがたくさん咲いています。写真はヤマユリのようなのですが、何か別の園芸品種かもしれませんね。このユリのほかにもいろいろなユリが咲いています。前の号で紹介したオニユリも花数を増やしています。ユリは普通、球根で増やしますが、ここでは何年も球根を植えていないのに、あちらこちらでユリの花が咲いています。恐らく種が飛んで、長い年月をかけて成長したものと思います。谷山家住宅の庭ではそろそろカノコユリも咲き始めまることでしょう。



まだ夏だというのに、もうアキノタムラソウが咲いています。名前に秋と付きますが、いつも今頃から咲き始めます。写真は一部ですが、実際は上下にもっと細長い姿です。きれいな淡い紫色の花が下から段々に咲いていきます。シソ科の植物で、アザミによく似たキク科のタムラソウとは全く関係ありません。ではどうして「秋の田村草」なんて名前になったのでしょうか。これは船屋の南の草むらで撮りましたが、道沿いでも普通に見られます。風にユラユラ揺れるこの花を探しながら歩いてください。



これは名前に秋は付きませんが、秋の七草のクズの花です。万葉集には山上憶良の「秋の野に咲きたる花を指（および）折り かき数ふれば 七種（ななくさ）の花」という歌があり、それに続いて、よく知られた「萩の花 尾花葛花 なでしこの花・・・」と続きます。クズは3番目に詠われていますね。そんな秋の風情漂うクズですが、今や各地で「害草」となっているようです。知らない間に繁茂し、空き地や放置林を覆ってしまいます。花はこんなに可愛いのに、何とかできないものでしょうかの



これも上のクズのように蔓でのびるブドウ科のヤブガラシです。イヌガラシやオランダガラシなど植物の名前には「カラシ」と付くものがありますが、ヤブガラシの「カラシ」はおでんに付ける「辛子」ではなく、やぶを枯らしてしまう「枯らし」の方です。クズほどではありませんが、樹木などを覆ってしまうので、こんな名前が付けられました。葉は5つに分かれています、独特な分かれ方です。手に取って観察してみてください。

松下